

■令和6年度版『ひろがる言葉 小学国語』6年 年間指導計画・評価計画(案)

「学習内容」…△知識・技能 ◇話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと

単元名／教材名	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
<p>質問に答えるかたちで自分のことを話そう 自分との対話 教科書:P8</p> <p>◇自分のことを客観的に捉えて話す。</p>	<p>1. クラスのみんなに聞いてみたい質問を出し合い、自分のことを話す活動であるということを確認する。</p> <p>2. みんなへの質問をカードに書く。 ＊教科書の例を参考にしながら、質問を考える。</p> <p>3. カードを引いて、質問を決める。</p> <p>4. 質問にどう答えるか考える。 ＊自分で具体的な質問を考えて答えを書き出す。</p> <p>5. グループで発表する。</p> <p>6. 感想を伝え合う。 ＊友達の話聞いて、印象に残ったことや共感したことなどについて交流するようにする。</p> <p><ふり返ろう> 7. 学習の振り返りをする。</p>	<p>【知識・技能】 ◎言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。(11ア)</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。(A11ア)</p> <p>【言語活動例】 ・意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動。(A21ア)</p> <p>【態度】 ・積極的に自分のことを客観的に捉え、今までの学習を生かして質問について考えようとしている。</p>
<p>楽しく声に出して読もう 風景 純銀もぎいく 教科書:P10</p> <p>□繰り返しの響きや意味に気をつけて音読し、言葉の意味を考える。</p> <p>☆学習用語:音読／詩</p>	<p>1. 『風景 純銀もぎいく』を音読する。 ＊何度も音読することによって、繰り返しの効果に気づくようにする。理屈ではなく身体で詩の表現の効果についてつかませたい。 ＊一連・二連・三連で、見えたり、聞こえたりしたことを考える。 ＊児童が理解しにくい言葉「むぎぶえ」「ひばり」「や(病)める」という語の意味については、写真等の資料を見せて補足し、説明を加えるとよい。 ＊発問例「どのような色が見えてきたかな」「こののはな畑はどれくらい広いのかな」「どのような音が聞こえてきたかな」「どのような匂いがしてきたかな」</p> <p>2. 音読して気づいたことや気になったことをグループで話し合い、詩の表す世界について、意見交流する。 ＊遠方から聞こえる「かすかなむぎぶえ」、上空から聞こえる「ひばりのおしゃべり」、そのさらに上に見える「やめるひるのつき」という各連の8行めについて、どのような違いがあるのかに着目するようにと助言する。</p>	<p>【知識・技能】 ◎比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。(11ク) ◎文章を音読したり朗読したりしている。(11ケ)</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C11エ)</p> <p>【言語活動例】 ・詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。(C21イ)</p> <p>【態度】 ・すすんで言葉の意味を考え、繰り返しの響きや意味に気をつけて音読しようとしている。</p>
<p>一 情景描写に着目して感想を話し合おう あの坂をのぼれば 教科書:P14</p> <p>□情景描写に着目して登場人物の心情の変化を想像し、物語の読みを深める。</p> <p>★ここが大事:物語の読みを深める</p> <p>☆学習用語:登場人物／情景／作者</p>	<p><見通しをもとう> 1. 単元扉を読んで、学習の見直しをもつ。</p> <p><たしかめよう> 2. 登場人物の心情がどのように変化したのかを考える。 ＊登場人物と似た経験がある子どもがいた場合には、そのときの経験を話させて、具体的に想像できるようにしてもよい。</p> <p><くわしくよう> 3. 繰り返される「—あの坂をのぼれば、海が見える。」に表れている心情について情景描写などに着目しながら考え、話し合う。 ＊「—あの坂をのぼれば、海が見える。」の繰り返しを確認し、登場人物の心情の変化を想像する。</p> <p><まとめよう> 4. 素敵だと思ふ情景描写について、感想をまとめる。 ＊「ここが大事」にもあるように、心情は、直接的に描写される場合もあるが、登場人物どうしの関わりや行動、会話、情景などを通して表現される場合もある。情景描写とは、形式や場面の様子が詳しく書かれている表現であることを確認する。</p> <p><つたえあおう> 5. まとめたものを伝え合う。 ＊考えを広げるために、互いの感想の違いに着目したり、よいところを認め合ったりする。</p> <p><ふり返ろう> 6. 学習を振り返る。</p>	<p>【知識・技能】 ◎思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(11オ) ◎文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。(11カ)</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(C11イ) ◎「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C11エ)</p> <p>【言語活動例】 ・詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。(C21イ)</p> <p>【態度】 ・すすんで情景描写に着目して読み、学習の見直しをもって感想を話し合おうとしている。</p>

単元名／教材名	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
<p>図に表して整理しよう 考えを図や表に 教科書:P22</p> <p>■目的や意図に応じて、考えや意見を図に書き出して、関係づけたり比較したりすることができる。</p> <p>☆学習用語: 課題／情報／インターネット／比べる／共通点／相違点</p>	<p>1. 教科書を読んで、考えを広げたり、まとめたりする際には、いろいろな図があることを知り、学習の見通しをもつ。 ＊同じ図でも、発想を広げる方法、分類したり比べたりする方法と2種類あることに気づかせる。 ＊P22上の図では、インターネットについて、日常生活の中で感じたり考えたりしてきた疑問や課題を書き出して関係づけたりしながら、課題や課題意識を明確にしていることを確かめたい。 ＊P22下の図では、インターネットについて長所と短所の二つの観点で分類整理していることを確かめたい。</p> <p>2. 実際に考える図を使ってみる。(随筆や意見文を書く際に使う。) ＊実際の学習の中で活用することで、効果を実感させたい。</p> <p>3. どのように考えをまとめたか友達と交流する。 ＊意見をまとめるノートづくりを、学期に15分程度の1モジュールずつ確認し、交流してもよい。 ＊ノートの工夫は年間を通じて確認していきたい。</p> <p>4. 学習を振り返る。</p>	<p>【知識・技能】 ◎情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(2イ)</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。(B1ア)</p> <p>【言語活動例】 ・事実を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B2ア)</p> <p>【態度】 ・粘り強く伝えたいことを明確にしよとし、学習の見通しをもって考えや意見を図に書いてまとめようとしている。</p>
<p>言葉の文化① 春はあけぼの 教科書:P24</p> <p>△『枕草子』の文章にふれ、リズムや響きを味わいながら音読し、『枕草子』ふうの文章を書く。</p>	<p>1. P24を読み、教材の概略をつかむ。 ＊文語の散文との初めての出会いである。まずは、教材の概略をつかませる。</p> <p>2. 教科書P29を読んで、学習の見通しをもつ。 ＊自分の経験や考えと比べながら読み、「私の枕草子」を書くという学習の見通しをもたせる。</p> <p>3. 教師の範読に合わせて読み、リズム等をつかんで、原文を繰り返し音読する。 ＊句読点など、くぎり方に気をつけてゆっくりと読ませる。慣れてきたら、リズムをつけて音読させる。</p> <p>4. 各「季節」の情景をイメージする。 ＊大意や写真を参考に、情景をイメージする。四季について、自分たちの経験や感じていることを想起させると、よりイメージが膨らんでくだろう。</p> <p>5. 好きな「季節」の文章を、大意を参照しながら、何度も音読する。 ＊気に入った「季節」の文章を選び、なめらかに読めるように何度も繰り返し読むようにさせる。暗唱に取り組ませてもよい。</p> <p>6. 自分の感じる季節感を『枕草子』ふうに書いて、交流する。 ＊自分の経験をもとにして、季節感を強く感じた場面を、簡潔な表現で文章化させる。</p>	<p>【知識・技能】 ◎親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3ア)</p> <p>【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(B1カ) ○「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C1イ)</p> <p>【言語活動例】 ・事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章を書く活動。(B2ウ)</p> <p>【態度】 ・すすんで語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、学習の見通しをもって『枕草子』ふうの文章を書こうとしている。</p>
<p>言葉の広場① 主語と述語の対応をかくにんしよう 教科書:P30</p> <p>△主語と述語の対応を確認して、文のねじれに気づき、正しく直す。</p> <p>☆学習用語: 主語／述語／伝える／漢字</p>	<p>1. 冒頭の会話文をおして、文を見直す際に主語と述語の対応を確認する大切さを知る。 ＊主語と述語が対応していない文は言いたいことが正しく伝わらない文になることに気づかせる。</p> <p>2. 教科書の例文を読み、どのように直せば主語と述語が対応するか理解する。 ＊教科書の例文を児童に提示してどのように直せばいいか考えさせようとして教科書の説明を読むようにする。 ＊ねじれ文の直し方は1つに限られるものではないことに気づかせる。</p> <p>3. ねじれ文を修正することで、主語と述語の対応について理解を深める。 ＊ノートに直した文を書かせ、主語(のま)と述語(のま)に線を引かせて、主語と述語の対応を確認させる。</p> <p>4. 文章を書くときに、主語と述語の対応をよく確認しているか振り返る。 ＊日頃の言語生活を振り返り、学習の成果を生かしていくことができるよう意識づける。</p> <p>5. 学習したことを振り返る。</p>	<p>【知識・技能】 ◎文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、語や文章の構成や展開、語や文章の種類とその特徴について理解している。(1カ)</p> <p>【態度】 ・積極的に主語と述語の対応について理解し、今までの学習を生かして、文のねじれに気づき、正しく直すようとしている。</p>
<p>漢字の広場① 三字以上の熟語の構成 教科書:P32</p> <p>△三字以上の熟語の構成について理解を深め、由来に関心をもつ。</p> <p>☆学習用語: 構成／熟語／話し合う</p>	<p>1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 ＊五年生上巻『漢字の広場③ 熟語の構成』で学んだ二字熟語の構成を再確認し、型に分けて、整理しておく。</p> <p>2. 「少人数」「保健室」「身体測定」という熟語の意味を考える。 ＊言葉の切れ目に「／」を入れて、構成を考えるようにする。 ＊言葉のつながりをもとに読み下し、熟語の意味を推測させる。 ＊どれも二字熟語が基本単位となっていることをおさえる。</p> <p>3. P32の説明にそって、三字と四字の熟語の構成について知る。 ＊切れ目に「丨」「丨」「丨」「丨」「丨」などを入れて、構成を考える。 ＊つながりをもとに読み下し、熟語の意味を推測できるようにする。</p> <p>4. 辞典を利用して、三字と四字の熟語を集め、その構成を考え、ノートにまとめ、発表し合う。 ＊国語辞典や漢字辞典で、漢字や熟語を調べ、推測した意味と比較するとよい。</p> <p>5. 切れ目に「／」を入れて、三文字以上の熟語の構成について話し合う。 ＊例示の「緑地化計画」をもとに、熟語が切れ目ごとに並んでいるというよりも、何段階かの階層をもって結びついていることをおさえる。</p> <p>6. 三字の熟語における結びつき方を考える。</p> <p>7. 略語と、略す前の熟語とを比べる。</p>	<p>【知識・技能】 ◎思考に関わる語句の量を増し、語や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1オ)</p> <p>【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって熟語の由来に関心をもち調べようとしている。</p>

単元名／教材名	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
<p>五年生で学んだ漢字① 教科書：P34</p> <p>△絵を見て想像したことをもとに、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く。</p>	<p>8. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 ＊教科書の絵を拡大して黒板に貼っておくと、指導することがらを児童たち全体に示しやすくなる。 ＊絵の中にある5年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 ＊絵に描かれたことと、言葉からわかる美術館の中の様子をできるだけたくさん発表できるようにはたらきかける。 ＊描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。</p> <p>9. 5年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 ＊描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 ＊読み手が理解しやすいように伝えたいこと、知らせたいことを明確にして書くようはたらきかける。 ＊条件をつけて文を書くよう促すと、記述の仕方に工夫がみられるようになる。 ＊内容につながりのある文を二つ以上書くようにすると、言葉を適切に使っているかどうかのわかりやすくなる。</p> <p>10. 互いの作った文を読み合い、感想や意見を述べ合う。 ＊互いの文のよいところを見つけて伝え合うことをとおして、それらを自分の表現に生かすようはたらきかける。</p> <p>11. 学習したことを振り返る。 ＊三字以上の熟語の構成について正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。</p>	<p>【知識・技能】 ◎第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ</p> <p>【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(B(1)イ)</p> <p>【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B(2)ア)</p> <p>【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵を説明する文を書くようにしている。</p>
<p>二 文章と資料をあわせて読み、筆者の考えをとらえよう アイスは暑いほどおいしい?—グラフの読み取り 教科書：P36</p> <p>□グラフについての説明を生かしてグラフを読み取り、全体の傾向や変化について説明する。</p> <p>☆学習用語：グラフ／傾向／最大値／最小値／変化</p>	<p><見通しをもとう> 1. 単元名やリード文を読んで、学習の見通しをもつ。 2. グラフについての説明を読んで、グラフの構成要素を理解する。 3. 「気温とアイス・シャーベット支出額」のグラフを読み取り、全体の傾向や一年間の変化について話し合う。</p>	<p>【知識・技能】 ◎情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(2)イ)</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(C(1)ア)</p> <p>【言語活動例】 ・説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめる活動。(C(2)ア)</p> <p>【態度】 ・すすんでグラフの意味や構成要素を理解しようとし、これまでの経験を生かし、どのような傾向や変化が読み取れるか、考えようとしている。</p>

単元名／教材名	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
<p>二 文章と資料をあわせて読み、筆者の考えをとらえよう</p> <p>書は新しいエネルギー——未来へつなぐエネルギー社会 教科書:P38</p> <p>□雪エネルギーの利用に対する筆者の主張と取り上げた事例の関係について、文章と資料を合わせながら読み、筆者の説明の仕方について考えをまとめる。</p> <p>★ここが大事:筆者の説明の工夫をとらえる</p> <p>☆学習用語:課題／事実／事例／文章／結果／分析</p>	<p><たしかめよう> 1. 本文を読んで、問いかけと筆者の主張について考える。 (1)筆者の問いかけについて、なぜ、化石燃料にたよらない社会をつくる必要があるのか、その理由について話し合う。 (2)筆者の問いかけに対する考えを話し、伝え合う。 ＊「P48学習の手引き」を参照することをおさえる。</p> <p><くわしくよもう> 2. 筆者が問いかけに対する考えを述べるために、どのような事例を示しているのか、文章と資料をあわせて読みながら考える。 ＊筆者がグラフをどのような意図で示しているのかを考えることをおさえる。</p> <p><まとめよう> 3. 筆者の説明の仕方の工夫について考え、ノートにまとめる。 ＊説明の仕方は「表現方法」と「具体例の順序」の二つの視点から考えることをおさえる。 ＊筆者が雪利用についての課題を切り口に述べている点を児童の気づきからおさえる。</p> <p><つたえあおう> 4. 筆者の説明の仕方について、考えを紹介し、感想を伝え合う。 ＊友達と伝え合うことを通じて自分の見方が広がった点について加筆・修正することをおさえる。</p> <p><ふり返ろう> 5. 文章と資料を結びつけて読む時や自分の考えを人に伝える時に、どのようなことに気をつけるとよいか振り返る。</p>	<p>【知識・技能】 ◎情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(C1イ)</p> <p>【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見を区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B1ウ) ○「読むこと」において、事実と感想、意見などの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(C1ア) ◎「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けたりして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。(C1ウ)</p> <p>【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B2ア) ・説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。(C2ア)</p> <p>【態度】 ・今までの学習を生かして、筆者の主張と取り上げた事例の関係について、文章と資料を合わせながら粘り強く読み、筆者の説明の仕方について考えをまとめようとしている。</p>
<p>三 立場を明確にして主張しよう</p> <p>パネルディスカッション——地域の防災 教科書:P52</p> <p>◇意見の違いを大事にしなが話し合い、考えを深める。</p> <p>★ここが大事:立場を決めて話し合う</p> <p>☆学習用語:立場／討論／パネラー／パネリスト／パネルディスカッション／フロア／主張／要点／共通点／相違点</p>	<p><見通しをもとう> 1. 単元名やリード文を読み、立場を明確にして話し合うことについて考え、学習の見直しをもつ。 (1)教科書を読み、パネルディスカッションの意図と進め方を知る。</p> <p><決めよう・集めよう> 2. 立場を決め、詳しく調べる。 (1)自分たちが話し合うテーマを設定する。 ＊事前に話し合いたいテーマについてアンケートをとり、いくつかテーマの候補を決めておいてもよい。 (2)立場を決め、調べる。</p> <p><組み立てよう> 3. 資料をもとに主張を組み立てる。 (1)自分たちが設定したテーマにそって、パネルディスカッションの準備を行う。 ＊テーマに対して調べる観点と立場、グループのメンバーを決める。 ＊グループで情報を集めたり、整理したりして、自分たちの主張をまとめる。</p> <p><話そう・聞こう> 4. パネルディスカッションを行う。 ＊司会者とパネリストを決め、フロアの役割を確認する。 ＊2回めのパネルディスカッションを行う。</p> <p><伝え合おう> 5. 感想を伝え合う。</p> <p><ふり返ろう> 6. 学習を振り返る。</p>	<p>【知識・技能】 ◎思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、話や語句を使っている。(1オ)</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしなが計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(A1オ)</p> <p>【言語活動例】 ・それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。(A2ウ)</p> <p>【態度】 ・意見の違いを大事にしなが粘り強く話し合い、学習の見直しをもって考えを深めようとしている。</p>

単元名／教材名	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
<p>三 立場を明確にして主張しよう みんなで作ろうパンフレット 教科書：P58</p> <p>■相手や目的に応じて内容や構成を考え、パンフレットを作る。</p> <p>★ここが大事：パンフレットで知らせる</p> <p>☆学習用語：パンフレット／パネルディスカッション／立場／構成／アンケート</p>	<p><見通しをもとう> 1. 教科書を読み、どのようにパンフレットを作るのかイメージし、学習の見通しをもつ。 ＊パンフレットを集めさせ、読み比べて、パンフレットという表現方法の特徴を理解させる。 ＊読んでもらう相手や目的を明確にする。その際、相手が大人なのか子どもなのか、どのようなことを中心に伝えるのかなど、具体的に考えさせる。</p> <p><決めよう・集めよう> 2. ちがう立場の人どうしてグループになり、知らせたい内容を話し合う。 ＊前単元のパネルディスカッションを踏まえ、その中で感じた個々の課題を振り返らせる。パネルディスカッション時のグループとは別のグループメンバーと話し合うことで、さまざまな立場からの課題や意見を交流できる。 ＊誰に何を伝えたいかを明確にすることで、パンフレットに載せる題材や分量も定まってくるだろう。</p> <p><組み立てよう> 3. 書く分担を決め、構成を考える。 ＊構成については、P59下段の構成例を参考にすのほか、地域で配布されているパンフレットや広報誌など、身近にあるパンフレットを用意して、参考にさせてもよい。 ＊中学年で学ぶリーフレットや、5年生で作ったポスターなど、相手や目的、伝えたい分量に合わせて、さまざまな伝え方があることを確認させたい。</p> <p><書こう>(重点) 4. パンフレットを作る。 ＊読み手にわかりやすくなるように工夫をさせる。写真やイラストを効果的に使うために、パンフレットの紙面展開の中で必要な事柄を文章で説明する部分と、写真やイラストで伝える部分の配分をどのようにするとよいか、具体的にイメージさせる。</p> <p><読み返そう> 5. おたがいの文章を読み返す。 ＊読み手に、よりわかりやすく伝えるにはどうしたらよいか、という観点で推敲させる。推敲する際の観点例：「他の言葉でわかりやすくすることはできないか」「見やすくするためにできる工夫はあるか」など。</p> <p><伝え合おう> 6. パンフレットを読み合う。 ＊クラス内だけでなく、全校生徒や地域の方に読んでもらえるよう、展示してもよい。読んでもらって、喜んでもらうことが大切である。そのことが、また書きたいという気持ちにつながる。</p> <p><ふり返ろう> 7. 知らせたいことや読む人のことを考えて、わかりやすいパンフレットを作るために、どんな工夫をしたか振り返る。</p>	<p>【知識・技能】 ◎情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(I2イ)</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B1)ウ)</p> <p>【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B2ア)</p> <p>【態度】 ・積極的に相手や目的に応じて内容や構成を考え、学習課題にそってパンフレットを作ろうとしている。</p>
<p>言葉の文化② 雨 教科書：P62</p> <p>△「雨」を扱った言語表現を集め、日本語の豊かさに気づく。</p>	<p>1. 教科書の文章から「雨」を取り上げた言語表現を知り、その背景を考える。 ＊「雨」を使用した言語表現の多様性に気づかせる。</p> <p>2. さまざまな言語表現を、辞典などで調べたり、これまで読んだ本の描写を思い出して確かめたりしながら「言葉ノート」を作る。 ＊どういう種類の辞典や参考書を見ればよいのかを考えさせる。 ＊これまで読んだ本で記憶に残っている雨の描写をいろいろな人と交流して集め確かめ合うようにさせる。雨を題材とした歌などの楽曲なども対象にしてよい。</p>	<p>【知識・技能】 ◎語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気づき、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。(I3ウ)</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。(B1ア)</p> <p>【言語活動例】 ・短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B2イ)</p> <p>【態度】 ・粘り強く「雨」を扱った言語表現を集め、学習の見通しをもって「言葉ノート」を作ろうとしている。</p>

単元名／教材名	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
<p>言葉の広場② 世代による言葉のちがいがい 教科書：P64</p> <p>△世代による言葉のちがいがいについて理解し、相手や場面に応じて適切な言葉を選んで使うことができるようにする。</p> <p>☆学習用語：世代による言葉の違い</p>	<p>1. 世代によって使用する言葉に違いがあることもあるということを知り、学習活動に対する見直しをもつ。 ＊教材冒頭の会話文を読み、世代による言葉の違いについて調べてみたいという意欲をもたせる。 ＊世代による言葉の違いは、あくまでも相対的なものであり、年長だからといってすべての人が「ジーパン」「いざさか」を用いるわけではなく、若い世代の人でもこれらの言葉になじんでいることがある。柔軟に扱うように配慮する。</p> <p>2. 言葉には、年上の世代の人たちには使われていたが、今はほとんど使われなくなったものがあるということについて理解する。 ＊P64下段を読み、板書やワークシートを活用しながら教科書に挙げられたもの以外にも今はほとんど使われなくなった言葉があることに気づかせる。</p> <p>3. 言葉には、自分たちの世代にしか通用しないものもあるということを理解する。 ＊P65上段を読み、ここに挙がっている「なにげに」「ビミョー」「ほほほほ」という言葉を使ったことがあるかどうか内省させ、他にもこのような言葉がないかどうか探させる。</p> <p>4. 言葉には、人が成長する過程で一時的に用いられるものもあるということを知る。 ＊P65下段を読み、幼児がよく使っている言葉にはどのようなものがあるか探させる。 ＊世代による言葉の違いについて、家の人たちにインタビューしてきよう指示を出す。</p> <p>5. 家の人に行ったインタビューの内容をグループでまとめて確かめあう。 ＊調べてきた内容をグループごとにそれぞれまとめ、気づいたことについて話し合わせる。</p> <p>6. 世代によって使われる言葉の違いや、普段友達どうして話しているときに使ってしまうだけだった表現の言葉について、クラス全体で話し合う。 ＊それぞれの世代によって使う言葉が変化することや、ものを表すのにいろいろな言葉があることのおもしろさについて感じさせる。 ＊今の言葉も、使う人や文体などによって、古い言い方や新しい言い方が交ざっていることに気づかせる。</p> <p>7. 学習したことを振り返る。 ＊P65のまとめを読み、世代によって使われる言葉の違いや、ふだん友達どうして使うようになった表現の言葉など、相手や場面によって使われる言葉に違いがあることを知り、自分が使う場面で、より適切な言葉を選ぶようにすることが大切であることを理解させる。</p>	<p>【知識・技能】 ◎語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。(I3ウ)</p> <p>【思考・判断・表現】 ○「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながらいかに話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(A1)オ</p> <p>【言語活動例】 ・インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動。(A2イ)</p> <p>【態度】 ・積極的に世代による言葉の違いについて理解し、学習課題にそって相手や場面に応じて適切な言葉を選んで使おうとしている。</p>
<p>漢字の広場② 複数の意味をもつ漢字 教科書：P66</p> <p>△複数の意味をもつ漢字が構成する熟語の意味に関心をもつ。</p> <p>☆学習用語：象形文字</p>	<p>1. 学習内容を理解し、学習の見直しをもつ。 ＊複数の意味をもつ漢字について理解するという学習課題を確かめ、漢字の使い方を理解できるようにし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づけ。</p> <p>2. 「象」という漢字の意味を考える。 ＊一つの漢字には、もともとの意味の他に、あとから意味が加わったり、変化したりするものがあることを「象」を例に知る。</p> <p>3. P66を読み、「象」という漢字には、もともとの意味と、派生した意味をあわせてもっていることを知る。 ＊具体的なものを表す具象語だけでなく、同じ漢字から抽象的な概念を表す抽象語も構成されていることに気づくことができるようにする。</p> <p>4. 「布」「針」を使ったそれぞれの熟語がどのような意味で使われているかを話し合う。 ＊「布」「針」を使った言葉を使い短文作りに取り組み、それぞれの言葉と漢字の意味を想起できるようにする。 ＊辞書でそれぞれの言葉と漢字の意味を確認する。</p> <p>5. P67下段の設問に取り組み、傍線の漢字がそれぞれどのような意味で使われているかを考え、違いを話し合い、辞典で調べる。 ＊声に出して文を読み、傍線の漢字のおおよその意味を推測し、それぞれの意味の違いを話し合うようにする。 ＊漢字辞典を活用して調べる活動を取り入れ、漢字の意味と語句の意味との関連に興味をもてるようにしたい。</p>	<p>【知識・技能】 ◎語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。(I3ウ)</p> <p>【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見直しをもつて複数の意味をもつ漢字が構成する熟語の意味を考えようとしている。</p>
<p>5年生で学んだ漢字② 教科書：P68</p> <p>△絵を見て想像したことをもとに、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く。</p>	<p>6. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 ＊漢字の使い方や表記などを理解できるようにし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づけ。 ＊教科書の絵を拡大して黒板に貼っておくと、指導することがらを児童たち全体に示しやすくなる。 ＊絵の中にある5年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 ＊絵に描かれたこと、言葉からわかる工場の中の様子をできるだけたくさん発表できるようにはたらきかける。 ＊描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。</p> <p>7. 5年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 ＊描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 ＊読み手が理解しやすいように伝えたいこと、知らせたいことを明確にして書くようはたらきかける。 ＊内容につながるのある文を二つ以上書くようにすると、言葉を適切に使っているかどうかをわかりやすくなる。</p> <p>8. 互いの作った文を読み合い、感想や意見を述べ合う。 ＊互いの文のよいところを見つけて伝え合うことをとおして、それらを自分の表現に生かすようはたらきかける。</p> <p>9. 学習したことを振り返る。 ＊複数の意味をもつ漢字について正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づけ。</p>	<p>【知識・技能】 ◎第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使おうとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(I1エ)</p> <p>【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(B1イ)</p> <p>【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B2ア)</p> <p>【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵を説明する文を書くこととしている。</p>
<p>四 表現が読み手にあたる効果について考えよう 川とノリオ 教科書：P70</p>	<p><見直しをもと> 1. 単元扉を読んで、学習の見直しをもつ。 ＊時代背景や難語句については、適宜説明を加える。</p>	<p>【知識・技能】 ◎比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。(I1ク) ◎文章を音読したり朗読したりしている。(I1ケ)</p> <p>【思考・判断・表現】</p>

単元名／教材名	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
<p>□優れた表現を味わいながら、人物の心情を読み、優れた表現についての感想を話し合う。</p> <p>★ここが大事：すぐれた表現を読む</p> <p>☆学習用語：擬人法／体言止め／比喩／情景／心情／朗読</p>	<p><たしかめよう></p> <p>2. いっどんなでできごとが起こったかに気をつけて読み、印象に残った場面を紹介し合う。</p> <p>*「いつ」がわかる部分にサイドラインを引くことで、起こったできごとを見つけやすくなる。</p> <p>*いつ、どのようできごとが起こったのか表に整理すると、物語の全体を捉えやすくなる。川や川つぶちがノリオに対してどのような様子であったかも確認する。</p> <p>*物語の中で、ノリオはどのように変容したのか。なぜ変容したのか。「初めは…。最後は…。そう変わった理由は…。」のような形を示し、考えられるようにしたい。また、場面とともに移り変わるノリオの心情についてもふれたい。</p> <p>3. 印象に残った場面を紹介し合う。</p> <p><くわしくよう></p> <p>4. 「比喩」「色」「体言止め」「擬人法」「音や様子」「くり返し」などの表現を探し、その効果について話し合う。</p> <p>*教科書では、六つの表現を取り上げている。「ここが大事」に、「すぐれた表現が、読み手の想像を広げ、物語の世界を豊かにしてくれます。」とある。想像を広げること、物語の世界の豊かさを確かめたい。</p> <p>*その他にも、「倒置法」「対句」のような表現がみられる。</p> <p>*擬人化された「川」とノリオとの関わりを捉える。「川つぶち」とあるのは、「川」そのものだけでなく、もう少し広い意味で捉えようとしている。</p> <p>* P90 の「言葉」の設問は、学習活動の中で適宜取り扱う。</p> <p><まとめよう></p> <p>5. 表現の効果を考えながら、心に残った場面について、自分の考えたことが伝わるように朗読する。</p> <p>*同じ表現を選んでいても朗読の仕方はさまざまに表れる。自分の感じたことがどのようなことを明確にしておくことが大切である。</p> <p>*「音読が文章の内容や表現をよく理解し伝えることに重点があるのに対して、朗読は、児童一人一人が思ったり考えたりしたことを、表現性を高めて伝えることに重点がある。」(『学習指導要領・解説』より)ことに留意する。</p> <p><つたえあおう></p> <p>5. 心に残った表現について感想を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物語の中で、特に心に残った表現 ・ノリオの心情の変化を、具体的にわかりやすく表している表現 ・自分では、思いつかないような表現 <p>*教科書に例示されている三つの観点を参考にノートに書く。なぜ、それが「心に残った」のか、根拠を明確にする。</p> <p>*互いの考えの違いに着目したり、よいところを認め合ったりして、考えを広げる</p> <p><ふり返ろう></p> <p>6. 学習を振り返る。</p> <p>(1)物語の世界を想像するときには、どのような表現に着目したいか考える。</p> <p>(2)朗読して伝えたい他の物語はあるか考える。</p>	<p>○「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(C1)イ</p> <p>◎「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C1)エ</p> <p>○「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C1)オ</p> <p>○「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C1)カ</p> <p>【言語活動例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。(C2)イ <p>【態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すすんで優れた表現を味わいながら、人物の心情を読み、学習の見通しをもって優れた表現についての感想を話し合うとしている。
<p>読書の広場① 地域の施設を活用しよう 教科書：P92</p> <p>△身のまわりに情報を集めることのできる施設があることを知る。</p>	<p>1. 情報を探ることのできる施設について知るという学習内容を知り、活動に見通しをもつ。</p> <p>2. 情報を探さずことのできる施設について、二次元コードを活用したりインターネットで検索したりし、自分が住んでいる地域の施設を調べる。</p> <p>3. 学習を振り返る。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>◎情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(I2)イ</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。(C1)ウ</p> <p>【言語活動例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館などを利用し、複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動。(C2)ウ <p>【態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の施設について調べ、情報収集のための活用方法を考えている。
<p>読書の広場② ひろがる読書の世界 教科書：P94</p> <p>△特別な一冊を紹介したり、伝記の人物から学んだことを漢字で表したりする活動をとおして、日常的に読書に親しむ。</p>	<p>1. 「私の特別な一冊を紹介する活動」、「伝記の人物から学んだことを漢字で表す」という学習内容を捉え、学習の見通しをもつ。</p> <p>2. 「私の特別な一冊を紹介する活動」、「伝記の人物から学んだことを漢字で表す」ために、学校の図書室や地域の図書館などで、興味のある本を借り、「読書りれき」などを活用し、自分の考えをまとめる。</p> <p>*夏休みの宿題との関連などが考えられる。</p> <p>3. 学習を振り返る。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付いている。(I3)オ</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C1)カ</p> <p>【言語活動例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。(C2)イ <p>【態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書生活を振り返り、「特別な一さつ」を紹介し合ったり、これからの読書生活を考えたりしている。
<p>相手の思いを考えながら聞こう 聞かせて！「とっておき」の話 教科書：P96</p> <p>◇話し手の意図を考慮しながら聞き、自分の意見と比べて考えをまとめる。</p>	<p><見通しをもとう></p> <p>1. 教材名やリード文から、本教材の目標や活動をつかむ。</p> <p>* 二人組で、話し手が詳しく話せるように、受け答えをしなが聞き、自分の考えや経験との共通点や相違点を意識して、感想を伝え合うことを確認する。</p> <p>2. 知らせたい「とっておき」を考える。</p> <p>(1)教科書の例を参考にしながら、友達と共通点がありそうでできごとを学級で話し合う。</p> <p>*「家族」「一年生のお世話」「将来の夢」「好きなスポーツ(野球)」「夏休み」「初めての体験」等が項目として考えられる。</p> <p>(2)できごとの項目から候補を三つ選び、それぞれ自分のエピソードを思い出す。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>◎言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。(I1)ア</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>◎「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(A1)エ</p> <p>【言語活動例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビューなどを活用して必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動。(A2)イ

単元名／教材名	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
	<p>3. 「とっておき」について話す。 (1) 二人で組みになり、エピソードをあげながら順番に話をする。 4. 感想を伝え合う。 (1) 友達のエピソードと自分の考えを紹介する。 (2) 紹介を聞き終えたら、感想を伝える。 ＊自分の考えや経験との共通点や相違点を意識して、感想を伝えるようにする。</p> <p><ふり返ろう> 5. 学習の振り返りをする。</p>	<p>【態度】 ・積極的に話し手の意図を考慮し、今までの学習を生かして自分の意見と比べて考えをまとめようとしている。</p>
<p>詩を読もう イナゴ 教科書：P98</p> <p>□凝縮された言葉の美しさや豊かさを味わいながら、詩の世界を楽しむ。</p> <p>☆学習用語：連</p>	<p>1. 「イナゴ」を音読して、一連と二連の「イナゴ」と「ぼく」の様子をもとに、詩の世界を想像する。 ＊一連が、色彩豊かな秋のひとときであることを知る。 ＊二連が、一連の世界とは一転して、緊張しているイナゴのクローズアップであることを知る。</p> <p>2. 一連と二連で、僕の目に映るイナゴの姿にどのような違いがあるか、その対比について、グループで話し合い、意見を交流する。視点の違いについて気づかせたい。</p> <p>3. 三連について考えたことを、全体で話し合う。 ＊三連、強い生きもの(ぼく＝人間)と、よわい生きもの(イナゴ＝昆虫)の間の「イネのにおい」とは、何を表しているか、比喩表現や象徴表現の意味について考える。この時に、一つの「正解」に追い込まないように、注意する。 ＊「川のように流れるイネのにおい！」から、どのようなことを想像したか考える。「イネ」そのものを見たことがない児童がいる場合は、写真や動画で資料を見せたり、5年生の社会科で学習した「稲作」を想起させたりするとよい。</p>	<p>【知識・技能】 ◎比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。(1)ウ ◎文章を音読したり朗読したりしている。(1)ケ</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C1)エ</p> <p>【言語活動例】 ・詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。(C2)イ</p> <p>【態度】 ・積極的に言葉の広がりを楽しむ、学習課題にそって詩の世界を楽しもうとしている。</p>
<p>言葉の文化③ 「知恵の言葉」を集めよう 教科書：P100</p> <p>△昔から広く継承されてきた「知恵の言葉」を知ることによって、言語文化の奥深さに気がつくとともに、自らの体験をもとに新たな「知恵の言葉」を創作する。</p>	<p>1. くらしの中に、もの名前や物事の手順を唱え言葉で覚える工夫があることを知り、教材文を読んで集めたり調べたりする意欲をもつ。 ＊教師の知っている唱え言葉による暗記などの工夫を紹介し、家で教わったり自分で工夫したりした工夫を思い出したりさせる。 ＊教材文での「知恵の言葉」のいろいろを唱えさせ、いろいろな「知恵」があることに気づかせるようにする。</p> <p>2. 自分の知っている「知恵の言葉」や本で調べた覚え歌、ことわざなどを集めたり整理したりして友達と交流する。 ＊「知恵の言葉」の唱えやすさや言葉のリズム等にあることに気づかせる。 ＊本、インターネット、家の人の口癖など、いろいろな方から集めるよう助言する。</p> <p>3. 自分の得意技や知っているコツを伝えやすいように「知恵の言葉」にして紹介し合う。 ＊交通標語なども「知恵の言葉」に入ることに気づかせ、自分の心覚えや下学年へのアドバイスなど唱えやすい言葉で作るようにさせる。</p>	<p>【知識・技能】 ◎思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ</p> <p>【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。(B1)ア</p> <p>【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B2)ア</p> <p>【態度】 ・すすんで語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、学習の見通しをもって自分の「知恵の言葉」を作ろうとしている。</p>
<p>五 てんかいを工夫して物語を書こう あなたは作家 教科書：P102</p> <p>■写真から想像を広げ、展開を考えて物語を作る。</p> <p>★ここが大事：物語を作る</p> <p>☆学習用語：中心人物／視点／クライマックス／やま場／情景描写</p>	<p><見通しをもとう> 1. 「学習の進め方」を読み、学習の見通しをもつ。 ＊物語を創作することを伝え、活動の具体的なイメージをもてるようにし、児童の意欲を高める。</p> <p><決めよう・集めよう> 2. 物語の設定を考える。 (1) 登場人物を選び、人物設定を考える。 ＊教科書の写真を見て気づいたことや感じたことを自由に発言させる。断片的な気づきでもよいし、また、ストーリーを想像させるしかげ(例：写真両端のポストの近くにいる男女は待ち合わせをしているのではないかなど)に気づいた児童がいれば、そこから想像を広げるおもしろさを実感させることもできるだろう。 ＊写真の中の人物の行動や服装、持ち物などに注目させ、どんな会話が生まれているかなどについて考えてもよい。 ＊写真はデジタル教材で大きく提示するなどの工夫も効果的だろう。 ＊選ぶ登場人物は一人でも複数人でもよい。 (2) 物語の大体を考える。 (3) 物語の展開される時や場所を考える。 ＊人物の行動や服装、持ち物などから、人物の性格や生涯についてイメージさせる。絵をかかせるとイメージが具体的になる。 ＊マッピングで発想をさらに膨らませてもよい。</p> <p><組み立てよう>(重点) 3. 物語を組み立てる。 ＊一人で考えるのではなく、友達の見解を聞くことで、自分では考えつかなかったおもしろいアイデアが生まれることもある。積極的に交流させたい。 ＊あらずじでは、自分が伝えたいことを「やま場」(クライマックス)にもっていき、よいことを助言する。 ＊「やま場」については既習事項(5年上巻『大造じいさんとがん』)だが、再度意味を確認するとよい。</p> <p><書こう> 4. 物語を書く。 (1) 書き出しを工夫する。 (2) 表現を工夫する。 ＊やま場を詳しく書くように指導する。会話文や内心語を入れると場面がいきいきする。 ＊これまでに学んだ文学作品を取り上げて、表現の工夫によって、作品にどんな効果が表れているかを確認させる。</p> <p><読み返そう> 5. 物語を読み返す。 ＊自分が伝えたいことがその言葉で読み手に伝わるかどうかを考えて、推敲を行わせる。</p> <p><伝え合おう> 6. 友達と読み合う。 ＊読んでもらって、喜んでもらうことが大切である。また物語を作りたいという気持ちになげたい。</p> <p><ふり返ろう> 7. どんなことを意識し、物語の展開を考えたら振り返る。</p>	<p>【知識・技能】 ◎文の中の語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ)</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(B1)イ)</p> <p>【言語活動例】 ・短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B2)イ)</p> <p>【態度】 ・積極的に物語のつくりの特徴について理解し、学習課題にそって写真から想像を広げ、展開を考えて物語を作ろうとしている。</p>

単元名／教材名	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
<p>言葉の広場③ なぜ、わかり合えなかったのかな？ 教科書：P108</p> <p>△伝え方次第で相手に自分の考えが伝わらないことを理解し、自分の考えを適切に伝える。</p>	<p>1. ふだんの会話やSNS上のやりとりの中で、自分の伝えたかったことが、相手にうまく伝わらなかった経験を思い返し、学習に対する見直しをもつ。</p> <p>2. 西川さんと田村さんのやりとりについて話し合う。 ＊どのようにすれば誤解なくやり取りができたのかを考えさせる。 ＊話し合ったことをもとに、実際に西川さんと田村さんになりきって誤解なくやり取りができるか、ペアでやりとりをしてみる。</p> <p>3. P109の3つの状況下で、どのように「いいよ」と言えばよいか話し合う。 ＊話し合ったことをもとに、実際にペアでやり取りをする。 ＊話すときの声の調子、表情、身ぶりや態度が相手に伝えるときに、大切であることを気づかせる。</p> <p>4. P109の「すみません」「やばい」の言い方について話し合う。 ＊言い方だけでなく、誤解のないよう、別の言葉に言い換えることも大切であることを気づかせる。 ＊いろいろな言い方で実際にやり取りをする。</p> <p>5. 「いいよ」「すみません」のほかに気をつける言葉を探す。 ＊実際にやりとりをし、どのような言い方や言い換えが適切か考えさせる。</p> <p>6. 本田さんと竹中さんのSNS上でのやりとりについて話し合う。 ＊どのようにすれば誤解なくやり取りができたのかを考えさせ、どんな言葉をどのように使うとよいのかを考えて伝えることが大切であることを気づかせる。</p> <p>7. P111を読み、SNS上で絵文字・顔文字を利用するよさや注意点を知る。 ＊実際にタブレット端末を利用してやり取りを行わせ、絵文字・顔文字を利用するよさや難しさを体感させてもよい。</p> <p>8. 学習したことを振り返る。</p>	<p>【知識・技能】 ◎言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。(1)ア)</p> <p>【思考・判断・表現】 ○「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞くこととする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(A)1)エ)</p> <p>【言語活動例】 ・それぞれの立場から考えを伝えるなどで話し合う活動。(A)2)ウ)</p> <p>【態度】 ・すすんで、言葉には伝え方次第で相手に自分の考えがうまく伝わらないことに気づき、見直しをもって、自分の考えを適切に伝えようとしている。</p>
<p>漢字の広場③ 熟語の使い分け 教科書：P112</p> <p>△意味のよく似た熟語の使い方の違いを理解し、使い分ける。</p> <p>☆学習用語：熟語</p>	<p>1. 学習内容を理解し、学習の見直しをもつ。 ＊熟語の使い分けについて理解するという学習課題を確かめ、漢字の使い分けを理解できるようにし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。</p> <p>2. 「大事」と「重要」の使い方の違いを考え、それぞれの文には、どちらがふさわしいかを話し合う。 ＊「大事」と「重要」の二語の使い方の違いを、熟語の使い分けに感心もてるようにすることをねらいとしている。 ＊意味のよく似た熟語の使い分けについては、用例をとおして直感的に判断したり、感覚的に捉えられるようにすることを第一とする。 ＊児童自身の体験や読書経験を生かし、できるだけたくさん用例を集め、使い分けを考えられるようにする。</p> <p>3. 「制限」と「限定」等の使い方の違いを考え、二つの熟語の使い分けを考えたり、国語辞典などを利用してそれぞれの意味と用例を調べたりして、確かめる。 ＊辞典を利用し、比較する二語の意味の共通点と相違点を調べ、用例が重なる場合と、使い分けされる場合があることを理解できるようにする。 ＊「事実」「現実」などのように、やや抽象的な概念を表す熟語については、それが表す具体的な中身を考えられるようにする。 ＊P114「経験」「体験」などは、日常生活を思い起こして考えられるといい。</p> <p>4. よく似た熟語を使って短文を作り、それぞれの違いを比べる。 ＊作った短文を発表し合い、その熟語が短文の使用例として適切かどうか、みんなで確かめてもよい。 【例】「延期・延長」、「感動・感激」、「周囲・周辺」</p>	<p>【知識・技能】 ◎思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に對する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ)</p> <p>【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見直しをもって、意味のよく似た熟語の使い方の違いを理解し、使い分けようとしている。</p>
<p>五年生で学んだ漢字③ 教科書：P115</p> <p>△絵を見て想像したことをもとに、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く。</p>	<p>5. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 ＊教科書の絵を拡大して黒板に貼っておくと、指導することがらを児童たち全体に示しやすくなる。 ＊絵の中にある5年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 ＊絵に描かれたことと、言葉からわかる場面の様子をできるだけたくさん発表できるようにはたらきかける。 ＊描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとかかりやすい。</p> <p>6. 5年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 ＊描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとかかりやすい。 ＊内容につながりのある文を二つ以上書くようにすると、言葉を適切に使っているかどうかのわかりやすくなる。 ＊条件をつけて文を書くよう促すと、記述の仕方に工夫がみられるようになる。</p> <p>7. 書いた文を見直し、適切な表現に替えたり、まちがいを正したりして、発表し合う。 ＊表現を改めたり、書きまがいがいなどを正したりして、書いた文を発表する。 ＊互いの文のよいところを見つけて伝え合うことをとおして、それらを自分の表現に生かすようはたらきかける。 ＊初めに書いた文と推敲した後の文を比べ、書き直してどこがよくなったかを互いに指摘し合うとよい。</p> <p>8. 学習したことを振り返る。 ＊熟語の使い分けについて正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。</p>	<p>【知識・技能】 ◎第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)</p> <p>【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B)1)オ)</p> <p>【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B)2)ア)</p> <p>【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵を説明する文を書くようとしている。</p>

単元名／教材名	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
<p>国語の学習 つながる ひろがる 教科書:P116</p> <p>◇半年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、計画的に学習できるようにする。</p>	<p>1. 半年間の国語の学習を振り返り自分が学んできたことを、「六年生で学ぶこと」を見ながら書き出したり話し合ったりする。</p> <p>＊上巻の教科書、学習のノート、作成物、プリント類(ポर्टフォリオ)などから振り返ることができるようにする。「六年生で学ぶこと」や挿し絵や吹き出しを参照する。楽しかったことを中心に思い出させたい。</p> <p>＊心に残っている単元や教材、学習活動、また心に残っている言葉などを具体的にメモし、発表し合う。</p> <p>＊友達の発表を共感して聞き交流し、学んできたことを共有できるようにする。</p> <p>2. 1で出し合ったことが、他の教科や生活の中で、どんなことに生かしているか考える。</p> <p>＊国語の学習がさまざまな場面で生かされることに気づけるようにする。</p>	<p>【知識・技能】 ○話の構成や展開、話の種類とその特徴について理解している。(1)カ)</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) ○「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)</p> <p>【態度】 ・積極的に上巻の教科書での国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、今までの学習を生かして計画的に学習しようとしている。</p>

単元名／教材名	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
<p>ー ファンタジーを読み、自分の考えをまとめよう きつねの窓 教科書:P8</p> <p>□登場人物の心情の変化を考えながら読み、想像したことを書く。</p> <p>★ここが大事:ファンタジーを読む</p>	<p><見通しをもとう> 1. 単元扉を読んで、学習の見通しをもつ。</p> <p><たしかめよう> 2. 子ぎつねに対する「ぼく」の心情の変化をまとめる。 ＊子ぎつねとの出会いから別れるまでの、「ぼく」の心情の変化を考える。</p> <p><くわしくよう> 3. 窓に映るものと、不思議な世界に行ったあとの「ぼく」の変化について考え、話し合う。 (1)窓にはどのようなものが映るのか、子ぎつねの「窓」に映ったものと、「ぼく」の窓に映ったものを比べて考える。 ＊P26教科書下段にもあるように、両者に共通している事柄を抽出することによって、「窓」の意味やはたらきをはっきりさせる。 (2)不思議な世界に行ったことによって、「ぼく」にはどのような変化があったのかを考え、話し合う。 ＊「ここが大事」にあるように、「ファンタジーの特徴の一つ」である「不思議な世界に入り、また戻って来る」物語である。一般に、戻って来た登場人物には変化(成長)がみられることが多い。この物語の場合はどうか。そこが話し合いの中心になる。 ＊「変わらない」、「変わった」、「変わった」とすれば、どのように変わったのか。クラスで一つにまとめる必要はなく、意見、考えを交流することに、話し合いの主眼を置く。「なぜならば……」と、根拠をはっきりさせて発言するようにする。 ＊「ここが大事」にあるように、不思議の世界が、「ぼく」にとってどのような意味をもっているのかを考えることも必要である。</p> <p><まとめよう> 4. 自分が「窓」で見たいものを考え、その理由も明らかにして、工夫して紹介する。 (1)自分は「窓」でどのようなものが見たいか、理由も明らかにして、想像したことを書く。 ＊「きつねの窓」における「窓」はどのようなものなのかを確認し、見たいものを理由とともに想像できるようにする。 (2)表現の仕方を工夫して紹介し合う。 ＊新聞やポスター、ポップなど、表現方法を選べるようにする。</p> <p><つたえあおう> 5. 作ったものを見せ合い、感想を伝え合う。 ＊「なるほどと思ったところ」「いいなと思うところ」など、長所を中心に感想を伝え合うようにする。</p> <p><ふり返ろう> 6. 学習を振り返る。 (1)ファンタジーを読むときに、どのようなことに気をつけたか振り返る。 (2)窓に映たいもの考えたときに、それを選んだ理由は何か考える。 ＊P28の「言葉」の設問は、学習活動の中で適宜取り扱う。</p>	<p>【知識・技能】 ◎思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に對する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)才)</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(1)才) ◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(1)才)</p> <p>【言語活動例】 ・詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。(1)才)</p> <p>【態度】 ・すすんで登場人物の心情の変化を考え、学習の見通しをもって想像したことを書くとしている。</p>
<p>言葉の文化④ 言葉は時代とともに 教科書:P30</p> <p>△言葉がその時代の人々とともに変化してきたことを知り、自分の考えをまとめる。</p> <p>☆学習用語:言葉づかい／歴史的仮名遣い</p>	<p>1. 『言葉は時代とともに』を読み、言葉の変化について考える。 ＊「言葉は時代とともに」変化しているという、教材の概略を捉えさせる。</p> <p>2. 『万葉集』や近代の代表的な文学者の作品にふれて、その言語表現を味わう。 ＊『万葉集』や正岡子規、夏目漱石、芥川龍之介の作品を音読して、それぞれの文章の違いに気づかせる。</p> <p>3. 身のまわりの事物から、言葉の変化を考えてみる。 ＊身のまわりの事物や語彙の変化を調べる。その際、書物からだけでなく、お年寄りにきいてみることも大事な取材活動になる。 ＊言葉の変化は、発音や文章の文体、文法など、さまざまな観点から考える必要があるが、ここでは語彙の変化が中心になるだろう。</p> <p>4. 時代とともに変化していく言葉について調べて、考えたことを交流する。 ＊「言葉の変化」について、自分の取材をもとに意見を書かせ、友達と交流させる。</p>	<p>【知識・技能】 ◎古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知っている。(3)イ)</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(1)カ)</p> <p>【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(1)ア)</p> <p>【態度】 ・積極的に言葉がその時代の人々とともに変化してきたことを理解し、学習課題にそって自分の考えをまとめようとしている。</p>

単元名／教材名	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
<p>二 説得力のある文章を書こう 十二歳の主張 教科書：P38</p> <p>■理由や根拠を示して、説得力のある意見文を書く。</p> <p>★ここが大事：説得力をもたせて書く／推敲する</p> <p>☆学習用語：課題提起／結論／序論／本論／投書</p>	<p><見直しをもとう> 1. 「学習の進め方」を読み、どのように意見文を書くのかイメージし、学習の見直しをもつ。 * 活動の流れを意識させ、児童の意欲を高める。 * 小学生が書いた投書を読み、意見文や投書がどのようなものなのかつかませてもよい。</p> <p><決めよう・集めよう> 2. 課題を決めて、取材する。 * 日頃感じている問題や改善したいこと、困っていることを話し合わせ、意見文を書くテーマを考えさせる。 * 自分が経験したこと、きっかけだけではなく、引用することを前提として資料を探させる。そうやって取材することで根拠が明確になり、説得力のある意見文になることを確認する。引用の際は、正確に引用できるように、審読情報を明記させる。</p> <p><組み立てよう> 3. 集めた材料から主張の理由・事例として適切なものを選び、伝えたいことが明確になるように構成を考える。 * P40の「構成表」をもとに、序論・本論・結論の構成を理解させる。</p> <p><書こう>(重点) 4. 意見文を書く。 * 一方的に自分の意見を言うのではなく、反対意見を予想して書いたり、その反対意見に反論したりすることを大切にさせる。 * 反対意見とその反論を書くときには、「確かに、……。しかし、……。 」という書き方があることを確認する。</p> <p><読み返そう>(重点) 5. 意見文を読み返す。 * P42の推敲の観点を参考にさせる。 * 友達同士による協同推敲を取り入れるとよい。</p> <p><伝え合おう> 6. 友達と読み合って、交流する。 * 読んでもらって、書いてよかったと思わせることが大切である。 * 書き手の目的や意図に応じた内容になっているかを考えながら、よいところについて感想を述べ合う。また、よりよくなるという観点から、お互いに助言し合う。 * 書いた意見文を、新聞に投稿させてもよい。学校外や社会に向けて自分の意見を発信させることの意義に気づける良い機会となるだろう。</p> <p><ふり返ろう> 7. 学習を振り返る。 (1) 説得力のある文章にするために、どんな工夫をしたか振り返る。 (2) どんな点に気づけて、推敲したか振り返る。</p>	<p>【知識・技能】 ◎文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ)</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B1)エ) ◎「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B1)オ)</p> <p>【言語活動例】 * 事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B2)ア)</p> <p>【態度】 * 積極的に情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、学習課題にそって理由や根拠を示して、説得力のある意見文を書くこととしている。</p>
<p>漢字の広場④ 音を表す部分 教科書：P44</p> <p>△形声文字について、音と意味、成り立ちも含めて理解する。</p> <p>☆学習用語：漢字／共通点／様子／熟語／発表／形声文字</p>	<p>1. 学習内容を理解し、学習の見直しをもつ。</p> <p>2. P44の文例を読み「清」「晴」「精」の共通点について考える。 * 4年生で学んだ『漢字の部首』と『漢字の音を表す部分』、5年生で学んだ『漢字の成り立ち』を想起させ、形声文字の特質を再確認できるようにする。 * どれも意味を表す部分と、音を表す部分とを組み合わせた漢字(形声文字)であることを確認する。 * 「青」という音を表す部分にもつ漢字を例に、形声文字の音を表す部分について理解を深めるようにする。</p> <p>3. P45「1」の設問に取り組み、音を表す部分が、へん・つくり・かんむり・あし等のどの位置にあるか話し合う。 * 音を表す部分の字形と読み方を確認する。</p> <p>4. 文字によって音が違うものもあることを知る。 * 「各一客一路」については、最初から「読み方が違うもの」と提示するのではなく、一度、児童に考えさせるようはたらきかけたい。</p> <p>5. P45「2」の設問をもとに、未習の漢字の読みを推測する。</p> <p>6. P45「3」の設問に取り組み、音を表す部分への関心を深める。 * すべて形声文字なので、それぞれの言葉を声に出して読ませ、音を表す部分を取り出してその読み方を確認できるようにする。</p> <p>7. P45「4」の設問を解き、同音の漢字を正しく使い分けられるようにする。</p> <p>8. P45「5」の設問に取り組み、音を表す部分を共通にもつ漢字の仲間を探し、それぞれの漢字を使った熟語を集め発表し合う。</p>	<p>【知識・技能】 ◎語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気づき、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。(3)ウ)</p> <p>【態度】 * 積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見直しをもって形声文字について、音と意味、成り立ちも含めて理解しようとしている。</p>
<p>五年生で学んだ漢字④ 教科書：P46</p> <p>△絵を見て想像したことをもとに、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く。</p>	<p>9. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 * 教科書の絵を拡大して黒板に貼っておくと、指導することがらを見直し全体に示しやすくなる。 * 絵の中にある5年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 * 絵に描かれたことと、言葉からわかる学校生活の様子をできるだけたくさん発表できるようにはたらきかける。 * 描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。</p> <p>10. 5年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 * 自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫するようはたらきかける。 * 描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 * 条件をつけて文を書くよう促すと、記述の仕方に工夫がみられるようになる。</p> <p>11. 互いの作った文を読み合い、感想や意見を述べ合う。 * 互いの文のよいところを見つけて伝え合うことをとおして、それらを自分の表現に生かすようはたらきかける。</p> <p>12. 学習したことを振り返る。 * 音を表す部分について正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。</p>	<p>【知識・技能】 ◎第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)</p> <p>【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B1)ウ)</p> <p>【言語活動例】 * 事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。(B2)ウ)</p> <p>【態度】 * 積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵を説明する文を書くこととしている。</p>

単元名／教材名	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
<p>三 自分の経験と重ねて読み、考えを広げよう あなたはどうか感じる？ 教科書：P48</p> <p>□友達と自分の感じ方の違いについて考える。</p>	<p>1. 単元扉を読んで、学習の見通しをもつ。</p> <p>2. 本文を読んで、友達と自分の感じ方はなぜ違うのか、考えを伝え合う。</p>	<p>【知識・技能】 ◎原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(2ア)</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C1イ)</p> <p>【言語活動例】 ・詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。(C2イ)</p> <p>【態度】 ・すすんで友達と自分の感じ方の違いについて考えようとし、見通しをもって、『ぼくの世界、君の世界』の学習に生かそうとしている。</p>
<p>三 自分の経験と重ねて読み、考えを広げよう ぼくの世界、君の世界 教科書：P50</p> <p>□筆者の考えに気をつけながら、文章の要旨を捉え、「心の世界」について考える。</p> <p>★ここが大事：筆者の論じ方</p> <p>☆学習用語：要旨</p>	<p><たしかめよう> 1. 「心の世界」を捉えるための事例と要旨について考える。 (1)「昔から大真面目に議論されてきた問題」を解き明かすための二つの事例について、表を用いてまとめる。 (2)『あなたはどうか感じる？』での学びや(1)の表をもとに、この文章の要旨について話し合う。</p> <p><くわしくよう> 2. 既習の説明文と比較して、筆者の論の進め方にはどのような特徴があるのか、事例や解説、絵や図表、文末表現などに着目して話し合う。</p> <p><まとめよう> 3. 『あなたはどうか感じる？』と『ぼくの世界、君の世界』での学びを手がかりに、自分の身近な経験と比べながら心の世界について考えたことを書く。</p> <p><つたえあおう> 4. 書いた自分の考えを友達と比較しながら読み合い、共通点や相違点はどこか、話し合う。</p> <p><ふり返ろう> 5. 筆者の思考の深め方や主張についてどう感じたか、自分の「心の世界」はどのような考えをもとにまとめたのか、振り返る。</p>	<p>【知識・技能】 ◎原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(2ア)</p> <p>【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B1ウ) ◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C1イ) ◎「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C1カ)</p> <p>【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたことを書く活動。(B2ア) ・説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。(C2ア)</p> <p>【態度】 ・学習の見通しをもって、筆者の考えに気をつけながら文章の要旨を捉えるとともに、自分の経験をふり返りながら「心の世界」について考えようとしている。</p>

単元名／教材名	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
<p>三 自分の経験と重ねて読み、考えを広げよう 「うれしさ」って何？——哲学対話をしよう 教科書：P62</p> <p>◇お互いの考えや意見を関連づけて述べ合い、共通点や相違点をもとに分類する。</p> <p>★ここが大事：伝え合う努力をするために</p>	<p><見通しをもとう> 1. 「うれしさ」について考え、互いの感じ方を伝え合うという学習の見通しをもつ。</p> <p><決めよう・集めよう> 2. 「うれしさ」について考える。 (1)人はどんなときに「うれしく」なるのかを考える。「うれしい」というとき、どんな場面を思い浮かべるか、発表し合う。 ＊発表を聞きながら、「うれしさ」にも違いがあることを確認するようにする。 (2)「うれしかったこと」「うれしさと感じるとき」を思い出し、具体的な場面を二～四つ書き出す。</p> <p><組み立てよう> 3. 「うれしさ」を感じた自分の体験をカードに書く。 (1)書き出した中から一～二つ選び、「なぜうれしさと感じたのか」「どんなうれしさだったのか」をメモする。</p> <p><話そう・聞こう>(重点) 4. 「うれしさ」を話し合い、分類する。 (1)グループ内で発表し合う。聞き手は、質問したり感想を伝えたりすることで、話し手の「うれしさ」の感じ方を確かめながら聞く。 ＊「うれしさ」の感じ方の共通点や相違点に留意して聞くように助言する。 (2)グループで出された「うれしさ」を分類し、名前をつける。 ＊共通点が伝わるように簡潔な名前をつけるようにする。</p> <p><伝え合おう> 5. 発表し合い、感想を交流する。 (1)グループごとに「うれしさ」の種類を発表する。 (2)「うれしさ」の種類を、学級全体でまとめ直す。</p> <p>6. 話し合いをとおして気づいたことや、残った疑問などをまとめる。</p> <p><ふり返ろう> 7. 学習の振り返りをする。 ＊対話によって、相手の考えと比較しながら自分の考えをまとめるとき、どんなことに気づけたか考える。</p>	<p>【知識・技能】 ◎原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞くこととする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(A1)エ) ○「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(A1)オ) ○「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見を区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B1)ウ)</p> <p>【言語活動例】 ・それぞれの立場から考えを伝えるなどで話し合う活動。(A2)ウ)</p> <p>・事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。(B2)ウ)</p> <p>【態度】 ・積極的にお互いの考えや意見を関連づけて述べ合い、今までの学習を生かして共通点や相違点をもとに分類しようとしている。</p>
<p>読書の広場③ 「読書タイムライン」を作って交流しよう 教科書：P66</p> <p>△読書タイムラインを作成することをとおして、今までの読書を振り返り、日常的に読書に親しむ。</p>	<p>1. 「読書タイムライン」を作るという学習内容を捉え、活動に見通しをもつ。</p> <p>2. 読書履歴などを振り返り、「読書タイムライン」をえがき、これまでに読んできた本を振り返る。</p> <p>3. テーマを決めて、3冊本を選び、友達と交流する。</p> <p>4. 自分の「読書タイムライン」を振り返り、これからの読書生活に活かせるようにする。</p> <p>5. 学習を振り返る。</p>	<p>【知識・技能】 ◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付いている。(3)オ)</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C1)カ)</p> <p>【言語活動例】 ・学校図書館などを利用して、複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動。(C2)ウ)</p> <p>【態度】 ・見通しをもって「読書タイムライン」を作成し、読書履歴などを振り返りながら、粘り強く自分が作った本について考えようとしている。</p>
<p>言葉の広場④ その場にふさわしい言い方 教科書：P70</p> <p>△話す相手や場面に応じて、敬意を表す言い方を適切に使い分ける。</p> <p>☆学習用語：敬意／謙譲語／尊敬語／敬語</p>	<p>1. 冒頭の会話文をとおして、敬意を表す際にさまざまな言い方があることを知る。 ＊敬語を使っても必ずしも丁寧な言い方にならないことに気づかせる。 ＊実際の場面を想定し、自分ならどのように言うかを考えさせながら学習を進めたい。</p> <p>2. 教科書を読み、敬意を表す言い方としてどのような言い方が適切か理解する。 ＊文末の形によって丁寧さや受ける印象が違ってくることに気づかせる。 ＊場面によって、どの表現が適切か話し合わせ、発表させる。</p> <p>3. 場面や相手に応じて、敬意を表す言い方として適切な言い方を選ぶ。 ＊敬意は敬語だけでなく漢語を使用することも示せることに気づかせる。また、身内のことを言い表す際は尊敬語を用いないことに気づかせる。 ＊敬語を使うこと以外にも、話す時の声の調子や表情、しぐさなども敬意を表すことにつながることを理解させ、よりふさわしい表現ができるように、ロールプレーなどを通し、練習させるとよい。</p> <p>4. 学習したことを振り返る。</p>	<p>【知識・技能】 ◎日常よく使われる敬語を理解し使い慣れている。(1)キ)</p> <p>【態度】 ・積極的に語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、学習課題にそって敬意を表す言い方を適切に使い分けようとしている。</p>

単元名／教材名	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
<p>詩を読もう 紙風船 教科書：P74</p> <p>□詩を朗読して表現の効果について考え、人物像を具体的に想像する。</p> <p>☆学習用語：繰り返し(反復)／比喩／倒置法</p>	<p>1. 「紙風船」の範読を聞いた後に、詩を黙読し微音読をして、最後に一斉音読をして、詩の世界を想像する。 ＊教師の範読を聞き、心の中で「黙読」、一人で声を出して「微音読(つぶやき読み)」をした後に、全員で「一斉読み」をするよ。しっとりとした雰囲気、詩の言葉と出会わせたい。</p> <p>2. 一連めが六行になっていることを確認したのちに、以下の5点についてペアで話し合う活動をして、確認する。 ①「今度は」という後の意味 ②これまで学習してきた詩の「繰り返し」と違って、「もつと高く」「もつともつと高く」という変化を伴う「繰り返し」になっていること ③「打ち上げよう」という呼びかけ調の言葉について ④二連目の二行が「倒置法」であることの効果について ⑤最終行の「～ように」が直喩であること</p> <p>3. 詩「紙風船」が、どんなイメージを読み手に呼び起こすかについて、グループで話し合せて、交流をする。 ＊タブレット等を使って、互いの気づきやイメージした言葉を、記録しておくよ。</p> <p>4. グループで交流して出てきた意見や詩についてのイメージを、教室全体で発表し、交流する。 ＊全体での交流で、一つの「正解」に追い込まないように留意する。児童の個々の読みを大切にす。</p> <p>5. 最後に「紙風船」を、全員で一斉音読をする。 ＊自分のイメージを大切にしながら音読するようにと助言する。</p>	<p>【知識・技能】 ◎比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。(1)ク ◎文章を音読したり朗読したりしている。(1)ケ</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C1)エ</p> <p>【言語活動例】 ・詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。(C2)イ</p> <p>【態度】 ・すすんで言葉からイメージを膨らませ、詩の世界を味わおうとしている。</p>
<p>4 筆者の書き方の工夫を見つけよう 「迷う」 教科書：P76</p> <p>□筆者のものの見方や感じ方などに触れるとともに、随筆の文章の特徴を捉える。</p> <p>★ここが大事：文章の特徴をとらえて表現に生かす</p> <p>☆学習用語：随筆</p>	<p><見通しをもとう> 1. 単元扉を読んで、学習の見通しをもつ。</p> <p><たしかめよう> 2. 「迷う」ことに関連した6つの事例の中から、自分が面白いと思った事例を選び、その面白いところについて話し合う。</p> <p><くわしくよもう> 3. 「迷う」ことに関連した事例のうち、書き方の面白さに着目し、どのような書き方の工夫や文章の特徴があるのか伝え合う。</p> <p><まとめよう> 4. 見つけた書き方の工夫に「わざ」の名前をつけ、その説明を表などにまとめる。</p> <p><つたえあおう> 5. 考えた「わざ」について伝え合う。</p> <p><ふり返ろう> 6. 書き手の工夫を見つける際に気をつけたことや、使っていた工夫について振り返る。</p>	<p>【知識・技能】 ◎文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ)</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめている。(C1)オ ◎「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C1)カ)</p> <p>【言語活動例】 ・説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。(C2)ア)</p> <p>【態度】 ・今までの学習を生かして、積極的に文章の特徴について理解するとともに、筆者のものの見方や感じ方などに触れ、随筆に親しもうとしている。</p>

単元名／教材名	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
<p>五 伝えたいことを明確にして書こう 六年間の思い出をつづろう—卒業文集 教科書：P86</p> <p>■事実や経験をもとに、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について考えたことを文章に書く。</p> <p>★ここが大事：思い出を卒業文集に書く</p>	<p><見通しをもとう> 1. 卒業文集が、6年間の小学校生活を振り返るとともに、11歳・12歳の「今の自分」を書き残す活動であることを確認する。 ＊これまでに培った言葉の力を、全て発揮して取り組む活動だということを自覚させたい。</p> <p><決めよう・集めよう>(重点) 2. 書く事柄を決める。 ＊P86の表を参考にして、心に残っている思い出を振り返らせる。 ＊適宜マッピング(ウエビング)を行い、広がりそうなテーマか吟味させる。 ＊具体的なエピソードがあると、読み手により伝わりやすいことを伝える。 ＊マッピング(ウエビング)を見ながら、ペアで質問し合い、より具体的なものにする。</p> <p><組み立てよう> 3. 文章の構成を考える。 ＊マッピング(ウエビング)などで取材した材料の中から、必要なものを選んで構成表を作らせる。</p> <p><書こう> 4. 文章を書く。 ＊「中」の部分で、自分の感情の変化やその場面の具体的な状況がわかるように書こう、助言する。 ＊随筆の学習を振り返らせ、表現の工夫をするよう助言する。</p> <p><読み返そう> 5. 推敲する。 ＊「中」のエピソードと「終わり」の自分にとっての意味がつながっているかを、特に吟味するよう助言する。 ＊友達とお互いの下書きを読み合う協同推敲を行うとよい。</p> <p><伝え合おう> 6. 友達と読み合う。 ＊お互いの文章の良い点に目を向けさせる。</p> <p><ふり返ろう> 7. 心に残ったことや、自分にとっての意味が伝わるように、どんなところを工夫したか振り返る。</p>	<p>【知識・技能】 ◎比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。(1)ウ</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。(B)(1)ア</p> <p>【言語活動例】 ・事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。(B)(2)ウ)</p> <p>【態度】 ・自分のこれまでの小学校生活を振り返り、心に残っている事柄と自分にとっての意味を考えながら、読み手に伝わる文章を書くようとしている。</p>
<p>言葉と私たち 教科書：P90</p> <p>◇■言葉に対する自分の考えを書き、言葉への関心をもつ。</p> <p>☆学習用語：教訓／尊敬語／謙譲語</p>	<p>1. 自分たちにとって言葉とは何か考えてみる。 ＊問いが抽象的になってしまうと答えにくいので、どんなときに言葉を使っているのかといった具体的なことを問うてもよい。 ＊「言葉とは」に続く形で、考えを書き出してもよい。</p> <p>2. 教科書の三人のメッセージを読み、それぞれについての感想を交流する。 ＊三人の筆者についての情報も提供して感想を求めてもよい。 ＊文章全体の感想だけでなく、印象的な語句(表現)を押さえることもできる。 ＊自由な感想交流としたいが、言葉がテーマであることは常に押さえておく。</p> <p>3. 言葉に対しての自分の思いを書く。 ＊P90上段の三つの問いかけを参考にするとよい。この問いに対しての応答でもよいし、言葉についての自由な考えでもよい。</p> <p>4. 書いたものをグループや学級で交流して言葉についての興味や関心を深める。 ＊グループによる話し合いで共通点を見いださせてもよい。 ＊何らかの答えを出すのではなく、言葉に対しての興味や関心をもたせるようにする。</p>	<p>【知識・技能】 ◎話し言葉と書き言葉との違いに気付いている。(1)イ)</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えている。(A)(1)イ) ◎「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。(B)(1)ア)</p> <p>【言語活動例】 ・意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動。(A)(2)ア) ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B)(2)ア)</p> <p>【態度】 ・すすんで言葉に対する自分の考えをもち、友達と交流したり書いたりすることをとおして、言葉への関心を広げようとしている。</p>
<p>漢字の広場⑤ 同じ訓をもつ漢字 教科書：P92</p> <p>△異字同訓について理解を深め、関心をもつとともに正しく使い分ける。</p>	<p>1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 ＊国語辞典や漢字辞典を利用し、漢字の適切な使い分けを確認する習慣を身につけさせるようにしたい。</p> <p>2. P92上段の設問にある文例を読み「あける」の意味や使い方について考える。 ＊「～が明ける」(期間が終わる)、「～を開ける」(ひらく)、「～を空ける」(からにする)を含む文の「が」「を」の助詞の違いにも着目させるとよい。</p> <p>3. P92下段の設問に取り組み、言葉の意味や漢字の使い方を考えて話し合う。 ＊文脈から判断したり、知っている熟語に置きかえたりして考えてみるなどの習慣を身につけさせたい。 ＊類義の語に置きかえて考えてもよい。 ＊『漢字の広場3 熟語の意味』で扱った意味のよく似た熟語どうしと同様に、どちらを用いてもよい場合があることも踏まえておきたい。</p> <p>4. P93上段の「つとめる」「はかる」「かわる」について、辞書を使い、適切な漢字を選ぶ。 ＊「勤務」という語は、給料をもらって仕事をするという「勤める」と同義であり、役目や任務を果たす「務める」という意味は薄い。 ＊「(会社などに)勤める」「(役目などを)務める」と、助詞が異なることに着目できるとよい。 ＊「計る」は時間・数などを数える、「測る」は長さ・高さ・深さ・広さ・程度を調べる、「量る」は重さ・容積を調べる際に使うことが多い。</p> <p>5. P93下段の言葉を使って文を作り、ノートにまとめ、発表し合う。 ＊同訓の漢字の使い分けを調べるには、国語辞典が便利だということに気づかせる。</p>	<p>【知識・技能】 ◎思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に對する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ)</p> <p>【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見直しをもって異字同訓について理解を深め、関心をもつとともに正しく使い分けようとしている。</p>

単元名／教材名	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
<p>五年生で学んだ漢字⑤ 教科書：P94</p> <p>△絵を見て想像したことをもとに、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く。</p>	<p>6. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 ＊教科書の絵を拡大して黒板に貼っておくと、指導することがらを児童たち全体に示しやすくなる。 ＊絵の中にある5年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 ＊絵に描かれたことと、言葉からわかる場面の様子をできるだけたくさん発表できるようにはたらきかける。 ＊描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。</p> <p>7. 5年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 ＊自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫するようはたらきかける。 ＊描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 ＊条件をつけて文を書くよう促すと、記述の仕方に工夫がみられるようになる。</p> <p>8. 互いの作った文を読み合い、感想や意見を述べ合う。 ＊互いの文のよいところを見つけて伝え合うことをおして、それらを自分の表現に生かすよう働きかける。</p> <p>9. 学習したことを振り返る。 ＊同じ訓をもつ漢字について正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。</p>	<p>【知識・技能】 ◎第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)</p> <p>【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B1)ウ)</p> <p>【言語活動例】 ・事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。(B2)ウ)</p> <p>【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵を説明する文を書くこととしている。</p>

単元名／教材名	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
<p>六 伝記を読んで、生き方について自分の考えをまとめよう 津田梅子——未来をきりひらく「人」への思い 教科書：P96</p> <p>口伝記を読んで、登場人物の生き方をともに、自分の未来について考える。</p> <p>★ここが大事：伝記を読む</p> <p>☆学習用語：人物像／伝記／関係図</p>	<p><見通しをもとう> 1. 単元扉を読んで、学習の見通しをもつ。 (1)単元扉を読む。 (2)本文を読む。範読を聞く。 (3)初発の感想を交流する。 (4)学習の見通しを確認する。 ＊これまで読んだ伝記について発表したり、津田梅子について知っていることを全体で交流したりする。 ＊初発の感想は、印象に残ったことや疑問に思ったこと、みんなで考えたり確かめたりしたいことなどの視点を意識して書くようにする。 ＊自分との共通点や相違点を感想に書いている児童がいた場合には、取り上げる。</p> <p><たしかめよう> 2. 津田梅子の人生を年表に整理する。 (1)梅子の行動や主な出来事がわかるところに線を引く。 (2)年表に整理する。 (3)年表に整理することのよさについて確認する。 ＊時を表す言葉に気をつけて津田梅子の行動や主な出来事を年表に整理するようにする。</p> <p><くわしくよう> 3. 津田梅子の人物像を考える。 (1)<たしかめよう>で作った年表を振り返り、津田梅子の行動を確かめる。 (2)本文の叙述から、津田梅子の性格やものの見方・考え方がわかる叙述を選ぶ。 (3)選んだ叙述から、どのような人物なのかについて考え、話し合う。</p> <p><まとめよう> 4. 津田梅子の人生や人物像をともに、自分の考えをまとめる。 (1)津田梅子の生き方でいちばん印象に残った事柄(生き方・考え方・行動など)をまとめる。 (2)津田梅子の人生や人物像の中で印象に残った事柄に対して、自分の考えを書く。 (3)「梅子関係図」か「私の未来」のどちらかの方法で、自分の考えをまとめる。 ＊自分の経験と照らし合わせて、共通点や相違点を見つけながら考えをまとめていくように伝える。</p> <p><つたえあおう> 5. まとめたものを読み合い、感想を伝え合う。</p> <p><ふり返ろう> 6. 「ここが大事」を確認し、「ふり返ろう」の観点にそって振り返りを行う。 (1)津田梅子の生き方の、どのようなことに心を動かされたか。 (2)自分の未来についてまとめるときに、どのようなことを考えたか。</p>	<p>【知識・技能】 ◎思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)才)</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C1)才) ◎「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C1)力)</p> <p>【言語活動例】 ・詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。(C2)イ)</p> <p>【態度】 ・学習課題にそって津田梅子の生き方を考えた後、自分のこれまでに会った人やもの・こととのつながりを思い出し、積極的に自分の考えをまとめようとしている。</p>
<p>言葉の広場⑤ 日本語の文字 教科書：P114</p> <p>△日本語の文字の由来や特徴に関心をもち、適切に使い分けができる。</p> <p>☆学習用語：会意文字／指事文字／象形文字／形声文字／訳／万葉仮名／仮名／外来語</p>	<p>1. 日本語は、さまざまな文字を使って書き分けられていることを知り、学習活動に対する見直しをもつ。 ＊教材文冒頭のイラストに付された説明書きから、日本語には多様な表記があることを知り、日本語の文字の由来・特質を学習することに対する意欲を高める。</p> <p>2. 漢字の由来・特徴について理解する。 ＊教材文を読み進めながら、漢字の由来や音訓の別、漢字の造語性などについて理解させる。</p> <p>3. 平仮名と片仮名の由来・特徴について理解する。</p> <p>4. ローマ字の由来・特質について理解する。</p> <p>5. 日本語の文字と外国語の文字との違いについて理解する。</p> <p>6. 日常生活の中で、日本語の文字がどのように使われているかを話し合う。 ＊P115下段の設問に取り組み、漢字・平仮名・片仮名・ローマ字がそれぞれどのようなことを表すのに用いられているのかについてグループで話し合わせ、全体で共有を図る。</p> <p>7. 学習したことを振り返る。 ＊日本語の文字の由来や特徴を理解することで、日本語にさらに興味をもち、積極的に意識して使用できるようにしていくことを示唆しておく。</p>	<p>【知識・技能】 ◎語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。(3)ウ)</p> <p>【思考・判断・表現】 ○「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。(A1)ア)</p> <p>【言語活動例】 ・意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動。(A2)ア)</p> <p>【態度】 ・積極的に日本語の文字の由来や特徴を理解し、今までの学習を生かして適切に使い分けようとしている。</p>

単元名／教材名	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
漢字の広場⑥ さまざまな読み方／特別な読み方の言葉 教科書：P120 △同形異語や熟字訓、同字異訓についての理解を深め、言葉の使い方に興味をもつ。	1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 2. 「上手」を例に、意味によって読み方が変わる言葉(同形異語)について知り、それぞれの意味や感じ方の違いを比べる。 ＊「うわて」「かみて」のそれぞれの意味を推測し、語感を考えてから辞典で意味や用例を調べ、比べるようにさせるとよい。 ＊対義語となる「下手」(したて・しもて)についても、それぞれに対応する読み方・意味・用例を調べるようにするとよい。 3. 「特別な読み方の言葉」(熟字訓など)について知り、P122の一覧表を使って、どのような言葉があるのか確かめる。 4. 「降」「背」「夜」「尊」など、複数の訓がある漢字(同字異訓)の読み分け方について興味をもつ。 5. P156からの「小学校で学んだ漢字」をもとに複数の訓がある漢字を探し、送り仮名に注意し、表現の効果などについて確かめたり、工夫したりして文を書き、友達どうして読み合う。 6. P121下段「1」の設問に取り組み、話し合う。 ＊「いろがみ・しきし」「ふうしゃ・かざぐるま」などの意味がわかるよう実物・写真・イラストなどを提示するとよい。 ＊読み方が変わると意味が変わるのか、意味は似かよっているが語感が異なるのか、具体的に考えさせるようにしたい。 7. P121下段「2」の設問をもとに訓の読み方を考え、音読する。 ＊「通」「冷」「空」の複数の訓の読み分けを考えるようにする。 8. 学習したことを振り返る。	【知識・技能】 ◎思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語感を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(11才) 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって同形異語や熟字訓、同字異訓についての理解を深め、言葉の使い方に興味をもとうとしている。
ひろがる言葉 出会った言葉をふり返ろう 教科書：P123 ■卒業を前に六年間の言葉の学びを振り返り成長を自覚するとともに、中学校での新しい言葉との出会いの希望をもつ。	1. 六年間の言葉の学びを振り返りながら、「卒業式で自分におくりたい言葉」を選ぶ。 ＊六年間の言葉の学びに関わるさまざまな思い出の品を持ち寄る。あるいは、それぞれの学年での代表的な単元や教材を教師が提示したり、思い出を自由に出し合ったりする。 ＊国語の授業に限定することなく、読書体験やその他の学校生活の中で出会った言葉を思い出させてもよい。 ＊『こんど、君と』の曲を聴くのもよい。「言葉」は単語とは限らないことを確認する。 ＊自分の好きな歌の歌詞を持ち寄ってもよい。 2. 自分で選んだ言葉をグループ内で交流する。 ＊挿し絵なども参考にしながら自由に思い出を語り合うようにする。理由やエピソードを必ず付け加えて話すようにする。 ＊互いに言葉を紹介するなかで、選んだ言葉が変更になってもよい。 ＊簡単なメモをとらせる。 3. 選んだ言葉を工夫して表現する。 ＊どのような表現方法があるのか教科書を参考にして確認する。教科書例示外の方法があってもよい。学級の卒業に向けた取り組みとからめて考えることもできる。 4. さまざまな表現方法で選んだ言葉を交流し、みんなの思いを共有する。 ＊できるだけ自由に個々の創意工夫を生かして楽しく交流し合いたい。 ＊卒業を意識させるとともに、中学校での学びについてどこかでふれるようにする。	【思考・判断・表現】 ○「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。(A11ア) ◎「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B11ウ) ◎「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。(B11カ) 【言語活動例】 ・意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動。(A12ア) ・事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。(B12ウ) 【態度】 ・積極的に六年間の言葉の学びを振り返り、成長を自覚するとともに、中学校での新しい言葉との出会いの希望をもとうとしている。